

認知したいじめを速やかに解消した事例13（高等学校第2学年男子）

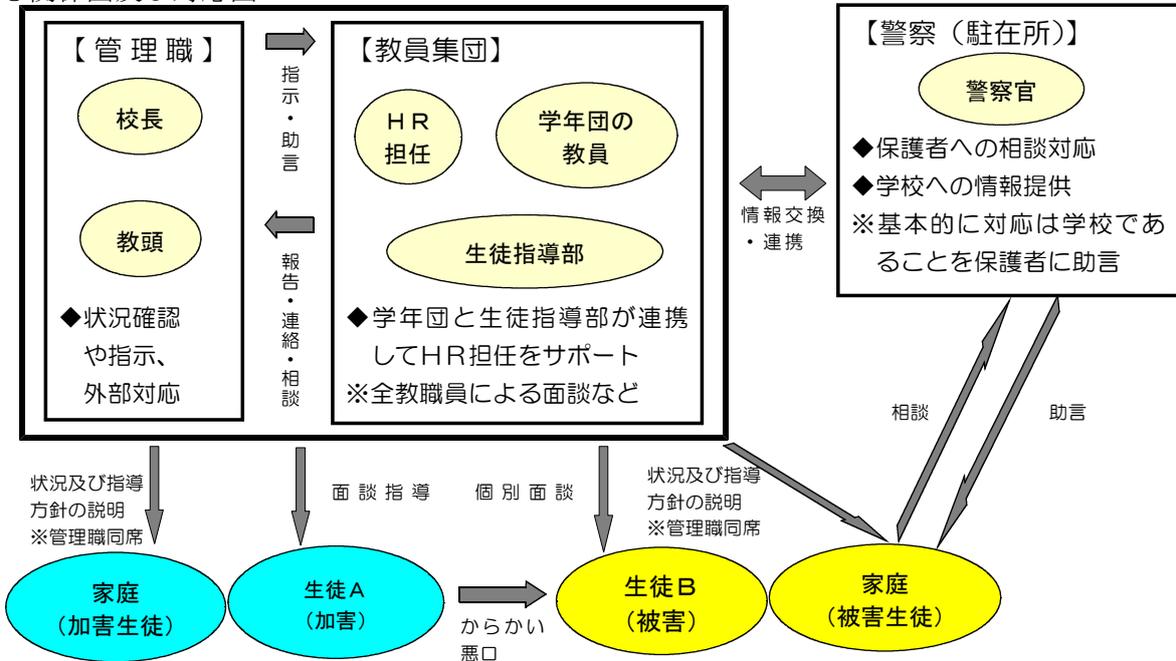
～警察との連携による対応～

問題の把握

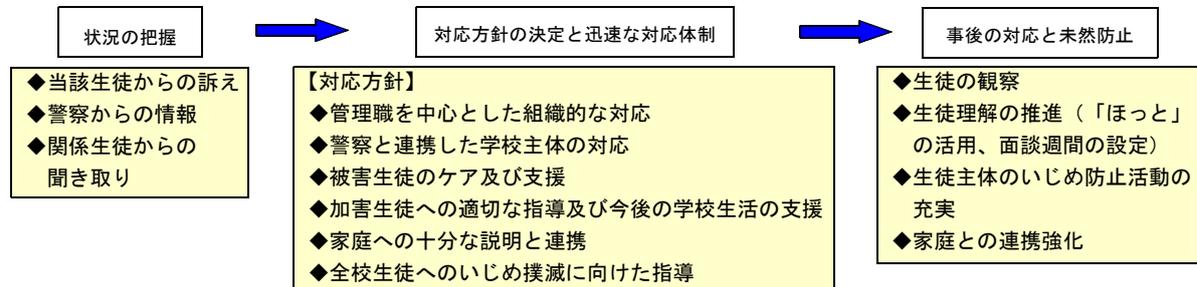
平成25年5月に、2学年男子生徒から「同じホームルームの男子生徒からいじめを受けている」との訴えがホームルーム担任にあった。生徒指導部と学年団を中心に対応していたところ、当該生徒が住む町内の駐在所の警察官から、当該生徒の母親からいじめについての相談を受けているとの連絡が学校にあった。教頭とホームルーム担任が駐在所と連携し、警察官から母親の訴えの内容を確認し状況を把握した。

対応状況

○関係図及び対応図



○対応の経過



いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・早期に対応方針を定め、迅速に対応するために管理職を中心とした組織的な対応が必要。
- ・外部機関との連携を活用しながら、学校が主体となって問題解決に取り組むことが重要。